

4-1-1-2 思春期診療科

1. 概要、特色

1.1 概要

成育医療センター開設に伴い、従来の縦割り診療体系ではなく全人的な診療を目指して総合診療部が設置された。思春期診療科は小児期診療科、成人期診療科と共に総合診療部に属し、思春期年齢を中心におこる疾患や生活上の問題などに取り組む診療科と位置づけられている。

1.2 特色

思春期は小児から成人への重要な橋渡しの時期であり、心身両面において成長と共に成熟が始まり、完成する時期である。思春期の定義については議論があるが、一般に二次性徴が進んでくる10歳から成長と成熟が完了する20歳までと言われている。思春期診療科ではこの前後プラス2年程度の幅の年齢層を診療対象として診療を行ってきた。また、この時期は自我自立の葛藤など、精神的にも支持が必要な時であるために、診療は思春期心理科とのチーム医療が必須である。また、二次性徴の問題から婦人科・泌尿器科との連携も適宜行っている。このように、当センターの基本理念の一つである、患者に最適なチーム医療の提供を心がけ、国内で唯一の思春期診療専門科としての活動を行っている。

2. 診療活動、研究活動

2.1 診療活動

思春期診療科は医長1・医員1の2名のスタッフ、総合診療部レジデント及びこころの診療部スタッフ・レジデントと共に病棟および外来診療を行っている。一部レジデントが病棟での臨床研修を経た後、外来診療にも参加することもある。思春期診療科の対象疾患は、摂食障害、肥満・糖尿病などの生活習慣病が主であるが、性成熟の異常（思春期早発症、思春期遅発症、月経異常）、性分化異常症、成長障害を主訴に受診する例も多い。また、近年増加している思春期の性の問題、慢性疾患の骨塩量低下の問題も取り扱うことを計画している。

2.1.1 外来診療

2.1.1.1 思春期外来

思春期診療科として、昨年度より隔週で開始した思春期外来を毎月曜午後に行っている。この外来は思春期年齢を中心に、主に性成熟異常、摂食障害、慢性疾患の成長障害と性腺機能低下の問題を扱い、思春期心理科・婦人科との合同外来である。心の問題の身体化を連携して扱うと共に、思春期年齢の婦人科疾患患者がスムーズに婦人科を受診する窓口にもなっている。最近では摂食障害患者の受診が増加し、軽症例から入院のタイミングを計りながら外来診療を続けている比較的重症例まで数多くの受診患者がある。これらの患者の受診希望に応えるため外来日数を増加させたが、それでも一人一人の診療時間が短縮されるか、時間外の診療を余儀なくされているのが実情である。思春期外来新患者数と疾患内訳を表に示した。

表：H15年度疾患別思春期外来新規受診患者数

主訴 または 診断名	患者数(人)
摂食障害(食欲不振、過食を含む)	25
頭痛	9
思春期発来(早発または遅発)	9

月経不順(続発性無月経を含む)	8
肥満	7
精神障害(身体化障害などを含む)	6
夜尿症	6
起立性調節障害	6
低身長	4
不明熱(微熱持続など)	2
吃音	2
女性化乳房	1
排尿時痛	1
合計	86

2.1.1.2 生活習慣病外来

毎月第1金曜日午後に糖尿病外来を、その他の金曜日午後に生活習慣病外来を設け、前者では1型糖尿病を、後者では肥満症とそれに伴う2型糖尿病をはじめとする生活習慣病を専門に扱っている。昨年度は第3金曜日の午後のみに行っていた生活習慣病外来は、需要の増加に対応し、毎週行うこととなった。これらの外来には、栄養士、臨床心理士が臨席し、適宜心理相談・栄養指導を行っている。平成15年度の生活習慣病外来初診患者のうち、肥満を伴う生活習慣病を主訴としたものは35名。その他、他外来・あるいは他科入院から生活習慣病外来対象者として兼診を依頼されるケースも多く、特に睡眠時無呼吸を主訴に耳鼻科受診し、減量等の治療を依頼された症例も数例存在する。

2.1.2 入院診療

入院病棟は10階西病棟が思春期病棟として設定されており、看護師は精神的問題も扱えるよう研修を行っているが、入院患者の増大に伴い、昨年度より10階東病棟および11階東病棟も思春期・キャリアオーバー患者が多く入院するようになった。入院患者の疾患は多岐にわたり、専門診療科入院患者にも積極的に関わっている。一般急性疾患、専門科にてフォロー中の患者の急性感染症(特に脳性麻痺等による長期臥床患者の急性病変)、外科系疾患の内科管理、いわゆる「専門診療のはざま」或いは他科にまたがるため主科の明らかでない慢性疾患、などが挙げられる。その他、コンスタントに入院の約半数~1/4を占めるのは摂食障害、めまいや微熱の持続などの不定愁訴、肥満症、等である。

心理面での治療が必要な患者については、毎週10階西病棟看護師・こころの診療部医師とともに心理カンファランスを行い、対応と治療方針を検討している。

また、思春期診療科として「神経性食欲不振症診療手順」、思春期心理科と10階西病棟看護師と共同して「摂食障害入院チーム治療の手引き」をそれぞれ作成し、診療に活用している。

2.1.3 性分化異常症ケアチーム

従来、性分化異常症のケアが診断と身体的治療に偏っていたことを省み、家族を含めた精神面のフォローや法的諸問題の対応をよりスムーズに進めるために、開院後間もなく院内にケアチームを立ち上げた。チームは総合診療部思春期診療科、新生児科、内分泌代謝科、泌尿器科、婦人科、遺伝診療科、こころの診療部が担当している。出生時に社会的性決定の評価を行い、その後の成長・二次性徴・妊孕性・社会生活をケアしていくことを目的とした、まさにチーム医療が必要な分野であり、しかも新生児期から成人期までの長い期間を状況に応じて治療していかなければならない疾患群である。

2.2 研究活動

思春期診療科では昨年度に引き続き以下のテーマで臨床研究・基礎的研究を行っている。

2.2.1 神経性食欲不振症

低年齢神経性食欲不振症(AN)の発育環境、成長障害と生化学・内分泌代謝異常の検討：低年齢ANの成長障害と身体予後を生化学・内分泌データから検討し、早期発見・早期治療、さらに予防を考える。

2.2.2 肥満の病態

グレリン、レプチンの動態と役割：摂食に関するペプチドやその受容体の検討より、肥満の病因と病態を探る研究

3. 研修、セミナー

3.1 思春期勉強会

毎月第1、3、5木曜日18時より思春期勉強会を開催している。テーマは以下の通り、院内外から講師を招いたり、思春期診療科・思春期心理科のスタッフ、思春期診療科レジデントが講義や診療のまとめの報告を行っている。

主なテーマ：摂食障害、肥満、頭痛、月経異常、思春期の性感染症、慢性疲労症候群、ざそう、夜尿症、性成熟異常、思春期の心の発達

3.2 こころと体の勉強会

政策医療大学院、虎ノ門病院、国際医療センター、聖路加病院、東京医大病院、関東中央病院、慶応大学病院の各思春期診療を行っている医師10名ほどが集まり、年2回の症例検討を主とした勉強会を開始した。平成15年度には2回の会合が催され、各施設の治療困難例などを持ち寄り検討したり、テーマに従った研究報告がなされた。過去2回のテーマは摂食障害、思春期のうつ。当院からはレジデントも参加し、積極的にディスカッションに加わった。

3.2 講演会

思春期勉強会の一環として、Grand Roundにおいて静岡県立こども病院医長 加治正行氏をまねき、「卒煙外来の子供たち」というテーマで禁煙についてご講演をいただいた。

4. 社会的活動

4.1 成育医療懇話会での講演